

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式／特殊型						
信託期間	無期限（設定日：2000年1月28日）						
運用方針	日本の取引所上場株式を主要投資対象とし、信託財産の中・長期的な成長を目指して運用を行います。						
主要投資対象	日本の取引所上場株式						
当ファンドの運用方法	<p>■日本の取引所上場株式の中から、21世紀において大きな成長が期待される銘柄を中心に投資します。</p> <p>■組入候補銘柄の選定は、主として次の業種・セクターに関連した企業の中から行います。</p> <table border="1"> <tr> <td>情報・通信</td> <td>情報・通信機器、情報・通信ソフト、情報・通信サービス</td> </tr> <tr> <td>シルバービジネス</td> <td>医療・介護機器、医療・介護サービス、医薬品、健康関連製品・ソフト</td> </tr> <tr> <td>環境</td> <td>環境保全機器・サービス、新エネルギー、省エネルギーリサイクル</td> </tr> </table> <p>（経済・社会情勢や市況動向等により見直しを行うことがあります。）</p> <p>■個別銘柄のファンダメンタルズ、定性的評価および株価水準等を考慮し組入候補銘柄を決定します。</p> <p>■日本の株価指数先物取引、株価指数オプション取引および株券オプション取引等を積極的に活用し、収益の獲得につとめます。</p> <p>■株式の実質組入比率は、マイナス50%から150%の範囲で機動的に変更します。</p>	情報・通信	情報・通信機器、情報・通信ソフト、情報・通信サービス	シルバービジネス	医療・介護機器、医療・介護サービス、医薬品、健康関連製品・ソフト	環境	環境保全機器・サービス、新エネルギー、省エネルギーリサイクル
情報・通信	情報・通信機器、情報・通信ソフト、情報・通信サービス						
シルバービジネス	医療・介護機器、医療・介護サービス、医薬品、健康関連製品・ソフト						
環境	環境保全機器・サービス、新エネルギー、省エネルギーリサイクル						
組入制限	<p>■株式への投資割合には、制限を設けません。ただし、株価指数先物取引、株価指数オプション取引および株券オプション取引等を活用することによる株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額のマイナス50%から150%の範囲内とします。</p> <p>■外貨建資産への投資は行いません。</p>						
分配方針	<p>■年2回（原則として毎年1月および7月の27日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配を行います。</p> <p>■分配対象額は、経費控除後の利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>■分配金額は、委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。</p> <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>						

三井住友・日本株 グロース・オープン

【愛称：勝ち組!】

【運用報告書(全体版)】

(2019年1月29日から2019年7月29日まで)

第 **39** 期

決算日 2019年7月29日

受益者の皆さまへ

当ファンドは日本の取引所上場株式の中から、21世紀において大きな成長が期待される銘柄への投資を中心とした運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

 **三井住友DSアセットマネジメント**
(旧:三井住友アセットマネジメント)
 〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

フリーダイヤル 0120-88-2976
 受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

最近 5 期の運用実績

決算期	基準価額			(参考指数) 日経平均株価		株式組入率	株式先物率比 (買建-売建)	純資産額
	(分配落)	税込分配金	期中騰落率	騰落率	騰落率			
35期 (2017年 7月27日)	円 5,816	円 0	% 11.0	円 20,079.64	% 3.1	% 84.9	% 19.1	百万円 849
36期 (2018年 1月29日)	7,266	0	24.9	23,629.34	17.7	85.2	19.5	966
37期 (2018年 7月27日)	6,787	0	△ 6.6	22,712.75	△ 3.9	77.1	25.8	892
38期 (2019年 1月28日)	5,785	0	△14.8	20,649.00	△ 9.1	73.8	27.7	729
39期 (2019年 7月29日)	6,249	0	8.0	21,616.80	4.7	75.6	28.4	773

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

※日経平均株価の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準価額		(参考指数) 日経平均株価		株式組入率	株式先物率比 (買建-売建)
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率		
(期首) 2019年 1月28日	円 5,785	% -	円 20,649.00	% -	% 73.8	% 27.7
1月末	5,817	0.6	20,773.49	0.6	73.5	27.8
2月末	6,021	4.1	21,385.16	3.6	77.8	27.7
3月末	6,200	7.2	21,205.81	2.7	79.2	26.8
4月末	6,356	9.9	22,258.73	7.8	72.6	28.6
5月末	5,927	2.5	20,601.19	△0.2	77.0	28.7
6月末	6,036	4.3	21,275.92	3.0	75.6	29.1
(期末) 2019年 7月29日	6,249	8.0	21,616.80	4.7	75.6	28.4

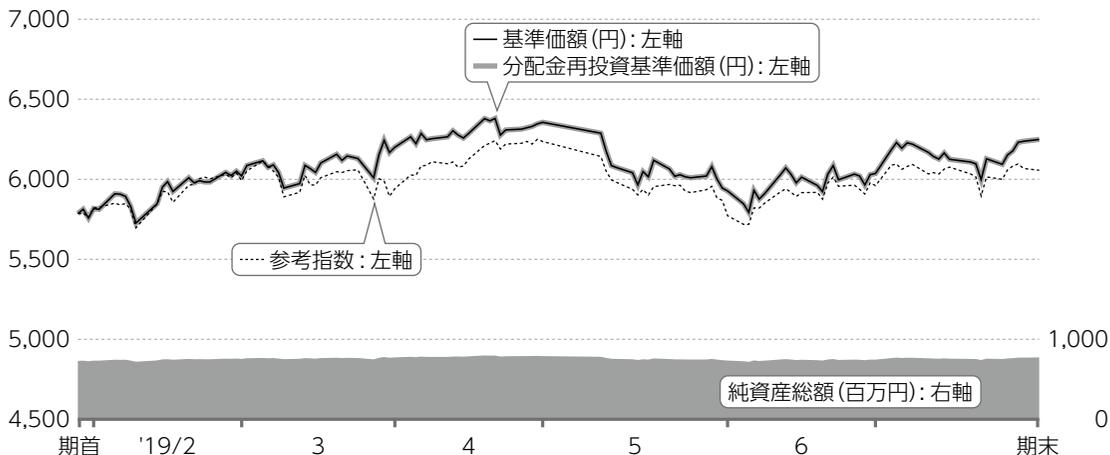
※騰落率は期首比です。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

1 運用経過

基準価額等の推移について(2019年1月29日から2019年7月29日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額および参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	5,785円
期末	6,249円 (分配金0円(税引前)込み)
騰落率	+8.0% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの参考指数は、日経平均株価です。

※日経平均株価の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

基準価額の主な変動要因(2019年1月29日から2019年7月29日まで)

当ファンドは、日本の取引所上場株式の中から、21世紀において大きな成長が期待される銘柄を中心に投資を行いました。また、日本の株価指数先物取引を活用して、収益の獲得につとめました。

上昇要因

- 期を通してみると、国内株式市場が上昇したこと
- TOPIX先物を買建てたこと
- 個別銘柄では、デジタルアーツ、GMOペイメントゲートウェイ、メタウォーターなどの株価が上昇したこと

投資環境について(2019年1月29日から2019年7月29日まで)

国内株式市場は上昇しました。

期を通して、米国の金融政策や米中の貿易問題を巡り一進一退の展開となりました。期首より4月末にかけては、米国の利上げが停止される中、世界的な景気改善期待の高まりなどを背景に上昇基調で推移しました。5月に入ると米国による中国に対する関税引上げやファーウェイへの制裁などを

受けて世界景気の後退懸念が高まったことから、大幅に下落しました。6月以降は米国の利下げ期待の高まりなどを背景に、再度緩やかに上昇する展開となりました。当期の市場の動きを日経平均株価で見ると、期首に比べて4.7%上昇しました。

ポートフォリオについて(2019年1月29日から2019年7月29日まで)

株式組入比率

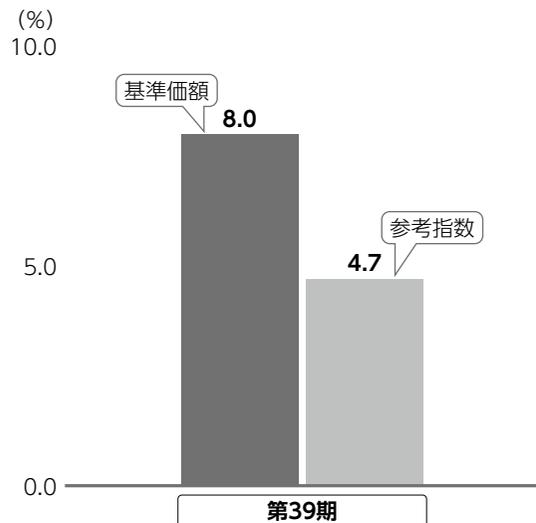
株価指数先物取引を含めた実質組入比率を概ね100-107%程度で推移させました。

個別銘柄

GMOペイメントゲートウェイ、ペプチドリーム、エイチ・アイ・エスなどを売却する一方で、PKSHA Technology、アルヒ、エレコムなどを買い付けました。

ベンチマークとの差異について(2019年1月29日から2019年7月29日まで)

基準価額と参考指数の対比(騰落率)



当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数として日経平均株価を設けています。

左のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

※基準価額は分配金再投資ベース

分配金について(2019年1月29日から2019年7月29日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第39期
当期分配金	—
(対基準価額比率)	(-%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,010

当期の分配は、基準価額水準等を勘案し、見送りいたしました。

なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

世界景気は労働供給サイクルなどを背景とする長期景気サイクルがピーク圏にある一方、在庫循環などを背景とする短中期景気サイクルはボトム圏にあり、長期サイクルが重しとなりながらも短中期サイクルによる循環回復が見込まれます。米中貿易戦争は覇権争いの様相を呈し、短期間での終結は困難であると想定します。一方、米国では大統領選を2020年に控えており、政治面から経済を支える意向が強いと想定します。世界的に金融政策が再び緩和方向になったことも支援材料です。

株式市場の基本感としては、景気、政治の両面でプラス要素とマイナス要素が入り

混じっており、上下両方向に大きな方向性は出にくいと想定されますが、当面は、金融緩和と短中期景気サイクルの循環回復が支えとなり、底堅い展開を想定します。

このような状況下、引き続きデリバティブ(先物などの派生商品)を含めた実質株式組入比率は概ね90-150%程度で推移させ、レバレッジ(デリバティブ取引を活用して投資比率を高めること)を効かせた運用を行う予定です。現物株式は、中長期的な成長が期待される情報・通信、シルバービジネス、環境に関連した銘柄中心に投資を行う方針です。

3 お知らせ

合併について

三井住友アセットマネジメント株式会社は、2019年4月1日に大和住銀投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三井住友DSアセットマネジメント株式会社に変更しました。

約款変更について

委託会社の合併に伴う商号変更および電子公告アドレスの変更に対応するため、信託約款に所
要の変更を行いました。

(適用日：2019年4月1日)

■ 1万口当たりの費用明細 (2019年1月29日から2019年7月29日まで)

項 目	金 額	比 率	項 目 の 概 要
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	49円 (23) (23) (3)	0.808% (0.377) (0.377) (0.054)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 投信会社：ファンド運用の指図等の対価 販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	6 (6) (0)	0.102 (0.094) (0.008)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (そ の 他)	0 (0) (0)	0.007 (0.003) (0.005)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用 そ の 他：信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	55	0.917	

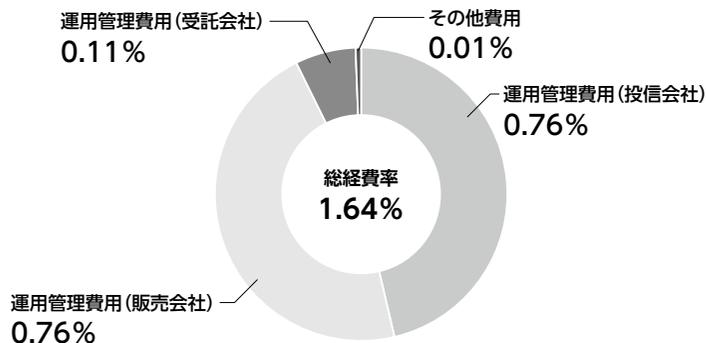
期中の平均基準価額は6,059円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 参考情報 総経費率（年率換算）



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

※各比率は、年率換算した値（小数点以下第3位を四捨五入）です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率換算）は1.64%です。

■ 当期中の売買及び取引の状況 (2019年1月29日から2019年7月29日まで)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国内	上 場	千株 203 (17)	千円 444,304 ()	千株 201	千円 453,428

※金額は受渡し代金。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 派生商品の取引状況等 (2019年1月29日から2019年7月29日まで)

先物取引の銘柄別取引・残高状況

銘 柄 別			買 建		売 建		当 期 末 評 価 額		
			新 規 買 付 額	決 済 額	新 規 売 付 額	決 済 額	買 建 額	売 建 額	評価損益
国内	株式先物取引	T O P I X	百万円 441	百万円 428	百万円 -	百万円 -	百万円 219	百万円 -	百万円 2

※金額は受渡し代金。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2019年1月29日から2019年7月29日まで)

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	897,733千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	573,611千円
(c) 売 買 高 比 率(a)/(b)	1.56

※単位未満は切捨て。

※(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

※外貨建資産については、(a)は各月末（ただし、決算日の属する月については決算日）の日本の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計、(b)は各月末の同仲値で換算した邦貨金額合計の平均です。

■ 利害関係人との取引状況等 (2019年1月29日から2019年7月29日まで)

(1) 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	B A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	D C
株 式	百万円 444	百万円 59	% 13.3	百万円 453	百万円 82	% 18.1

(2) 利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	期 末 保 有 額
株 式	百万円 -	百万円 -	百万円 11

(3) 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
(a) 売 買 委 託 手 数 料 総 額	772千円
(b) う ち 利 害 関 係 人 へ の 支 払 額	118千円
(c) (b) / (a)	15.4%

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、株式会社三井住友フィナンシャルグループ、SMB C日興証券株式会社です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
(2019年1月29日から2019年7月29日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2019年7月29日現在)

(1) 国内株式

銘 柄	期首(前期末)		期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
水産・農林業 (0.1%)				
マルハニチロ	3.9	0.2		628
建設業 (1%)				
前田建設工業	7.6	-		-
五洋建設	8.1	-		-
食料品 (1%)				
宝ホールディングス	12.6	-		-
パルプ・紙 (1%)				
王子ホールディングス	2.5	-		-
化学 (1.7%)				
ライオン	-	3.2		6,944
タカラバイオ	1.3	1.5		3,141
医薬品 (1.2%)				
ペプチドリーム	4.4	1.2		7,164
機械 (5.8%)				
ディスコ	0.1	-		-
ダイフク	4.5	3.5		21,350
マックス	-	7.2		12,542
電気機器 (11.4%)				
日立製作所	4.8	4.8		18,384
日本電産	-	1.1		15,851
エレコム	-	4.6		18,400

銘 柄	期首(前期末)		期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	株	株	株	千円
日本トリム	1.8	-		-
イリソ電子工業	0.1	-		-
カシオ計算機	4.8	-		-
村田製作所	0.8	3		14,313
輸送用機器 (3.9%)				
トヨタ自動車	1.1	1.1		7,862
武蔵精密工業	-	10.4		14,747
精密機器 (3.1%)				
トプコン	0.9	-		-
タムロン	-	6.6		16,209
CYBERDYNE	3.2	3.2		1,987
その他製品 (4.0%)				
前田工機	-	1.9		3,486
任天堂	0.9	0.5		20,160
電気・ガス業 (6.1%)				
メタウォーター	11	8.9		35,555
陸運業 (1%)				
ヤマトホールディングス	2.8	-		-
情報・通信業 (28.7%)				
デジタルアーツ	4.8	4.3		47,300
グリー	3.1	4.6		2,392
イーブクイニシアティブジャパン	-	5.7		11,468
GMOペイメントゲートウェイ	5.8	1.1		8,701

三井住友・日本株グロス・オープン 【愛称：勝ち組！】

銘柄	期首(前期末)		期末	
	株数	株数	評価額	評価額
AOI TYO Holdings	2.1	—	—	—
UUUM	4.9	3.8	19,988	—
PKSHA Technology	—	4.3	25,886	—
野村総合研究所	5.2	11.6	22,248	—
オービック	—	0.3	3,558	—
トレンドマイクロ	0.8	—	—	—
IMAGICA GROUP	3.4	—	—	—
日本ユニシス	1.6	0.2	726	—
ファイバーゲート	—	2.6	9,529	—
アルファポリス	—	0.9	2,452	—
ゼンリン	3.2	—	—	—
福井コンピュータホールディングス	—	1	2,284	—
ミロク情報サービス	—	3.2	11,072	—
卸売業 (4.8%)				
伊藤忠商事	3.8	3.8	7,978	—
岩谷産業	7.7	5.6	20,384	—
小売業 (0.7%)				
DDホールディングス	—	0.9	2,680	—
ワークマン	0.1	0.3	1,533	—
銀行業 (3.4%)				
三菱UFJフィナンシャル・グループ	15	15	7,941	—
三井住友フィナンシャルグループ	3	3	11,511	—
ふくおかフィナンシャルグループ	0.5	—	—	—
みずほフィナンシャルグループ	1	1	157	—
その他金融業 (6.9%)				
アルヒ	6.3	15.1	30,713	—
オリックス	3.9	3.9	6,481	—
イー・ギャランティ	0.7	2.4	2,908	—
不動産業 (3.1%)				
三井不動産	1.4	1.4	3,511	—
カチタス	—	3.5	14,472	—
サービス業 (15.1%)				
日本M&Aセンター	0.7	0.6	1,656	—

銘柄	期首(前期末)		期末	
	株数	株数	評価額	評価額
タケエイ	—	18.3	17,897	—
パーソルホールディングス	2	2.3	6,028	—
総合警備保障	2.8	0.1	505	—
ディップ	—	1.6	3,457	—
ディー・エヌ・エー	2.9	2.1	4,410	—
ヒビノ	1.9	7.4	18,278	—
テイクアンドグヴ・ニーズ	4.2	—	—	—
ラウンドワン	—	0.9	1,526	—
リゾートトラスト	1.4	2.1	3,360	—
サイバーエージェント	4.8	3.7	16,964	—
リクルートホールディングス	0.1	—	—	—
インソース	—	4.1	12,751	—
エイチ・アイ・エス	4.7	—	—	—
乃村工藝社	6.2	1	1,472	—
合計	株数・金額	株数・金額	株数・金額	株数・金額
	187	206	584,911	—
	銘柄数<比率>	52	54	<75.6%>

※銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

※< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

※評価額の単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※—印は組入れなし。

(2) 先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別	期末	
	買建額	売建額
国内	百万円	百万円
株式先物取引	219	—
TOPIX	—	—

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※—印は組入れなし。

■ 投資信託財産の構成

(2019年7月29日現在)

項目	期末	
	評価額	比率
株式	千円	%
株	584,911	74.7
コール・ローン等、その他	198,358	25.3
投資信託財産総額	783,269	100.0

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2019年7月29日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	806,444,597円
コール・ローン等	187,466,796
株式(評価額)	584,911,500
未収入金	13,036,301
未収配当金	235,000
差入委託証拠金	20,795,000
(B) 負 債	33,263,031
未払金	3,933,582
未払信託報酬	6,127,492
未払利息	451
差入委託証拠金代用有価証券	23,175,000
その他未払費用	26,506
(C) 純資産総額(A-B)	773,181,566
元 本	1,237,261,604
次期繰越損益金	△ 464,080,038
(D) 受益権総口数	1,237,261,604口
1万口当たり基準価額(C/D)	6,249円

※当期における期首元本額1,261,098,275円、期中追加設定元本額39,346,878円、期中一部解約元本額63,183,549円です。

※代用として、担保に供している資産は、株式19,452,000円です。(受渡しベース)

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税引前)	当 期
	－円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

■ 損益の状況

(自2019年1月29日 至2019年7月29日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	4,873,163円
受 取 配 当 金	4,928,090
受 取 利 息	△ 3
そ の 他 収 益 金	99
支 払 利 息	△ 55,023
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	54,051,471
売 買 益 損	89,914,507
売 買 損 益	△ 35,863,036
(C) 先 物 取 引 等 取 引 損 益	3,562,580
取 引 益 損	10,141,496
取 引 損 益	△ 6,578,916
(D) 信 託 報 酬 等	△ 6,184,027
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	56,303,187
(F) 前期繰越損益金	△ 64,383,971
(G) 追加信託差損益金	△455,999,254
(配当等相当額)	(10,851,681)
(売買損益相当額)	(△466,850,935)
(H) 計 (E+F+G)	△464,080,038
(I) 収 益 分 配 金	0
次期繰越損益金(H+I)	△464,080,038
追加信託差損益金	△455,999,254
(配当等相当額)	(10,851,681)
(売買損益相当額)	(△466,850,935)
分配準備積立金	114,156,546
繰越損益金	△122,237,330

※有価証券売買損益および先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※期末における、費用控除後の配当等収益(4,390,809円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(10,851,681円)および分配準備積立金(109,765,737円)より分配可能額は125,008,227円(1万口当たり1,010円)ですが、分配は行っていません。